

にしのみまプロフェッショナル 十方拝礼 (しゅうはいら) 保持者会

「四方八方天地を拝む」

西暦奇数年の8月下旬、「たゞにしゅうやしゅうはいら」この掛け声と「胴(太鼓)」の音で、西ノ島町の国指定重要無形民俗文化財である「十方拝礼(しゅうはいら)」の稽古がスタートする。

しゅうはいらの稽古の合図である「胴(太鼓)」の音が聞こえてくると、稽古場である長福寺の近所の年配の方は、秋の始まりを感じると共に嬉しく、また誇らしく思うそうである。

美田八幡宮で西暦奇数年の9月中旬の例祭で奉納される祭礼「十方拝礼(しゅうはいら)」。

祭礼は「神の相撲」「獅子舞」「田楽」の3部で構成され、このうち芸能として特徴をよく残している田楽は地元では「十方拝礼(しゅうはいら)」と呼ばれ、全国的に見ても屈指の芸能であるとして平成4年に国の重要無形民俗文化財に指定されている。

この神事は雅楽のように激しい動きは少なく一見簡単そうに見えるが独特のリズムで面白い動きをする。また、四方八方に加え天地を含めた、十方を拝むことから名がつけられた「十方拝礼(しゅうはいら)」は実に理に叶った祭礼と話す研究者もいる。



▲ 獅子舞

以前は、踊り手を出す地区、舞台を設置する地区、薪を集めタイマツを用意する地区・・・というように美田7地区で仕事の分担があり、地区を挙げたの大祭であった。

また、面白い話では「戦後、食糧難の時代でも十方拝礼を踊る者には稽古中ごちそうが用意され、それを楽しみて踊っていた・・・」という伝えもある。

長福寺の住職で踊り手でもある高橋英康さんは「国の重要無形民俗文化財に指定されている本格的な田楽を生で楽しめるのは貴重な体験。地域に根差す伝統芸能を地元住人を含め、もっと多くの人に見て欲しい」と語る。

「伝える事への使命感」

昔からしゅうはいらを踊られている方にしゅうはいらに対する率直な感想を尋ねたところ「伝統として義務で継承するのではなく、一度踊った身として継承させたいモノになった」、「選ばれることは大変な栄誉であり、誇りに思う」と話された。

子供たちも数名参加しており、舞台が終わると、上手に踊れたご褒美として祖父父母などに、おこずかいをもらおうといった微笑ましい光景も見られる。



▲ 神の相撲

「伝統継承と交流の大切さ」

毎回の稽古後は恒例のように、踊り手達がお酒やジュース、お菓子を囲みながら、踊りの反省や西ノ島のこと、世間のことなどを口ぐちに語る。

「8歳から82歳まで年齢もばらばらの人

達が気軽に話し合える場」このような場は最近では少なくなっており、こういう場作りこそが大事で、伝統を継承させると共にとても大切な一つだと感じました。

総務課



▲ 田楽：総踊り



▲ 踊りに使用する笠の準備

西ノ島町観光協会からのお知らせ

秋イベントに参加しませんか？ 隠岐の4島を回って隠岐の良さを再発見しましょう！

10月13日(日)	一夜獄嶽牛突き大会	一夜獄嶽牛突き場(隠岐の島町)
10月14日(月)	隠岐神社秋季大祭	隠岐神社社境内(海士町)
10月15日(火)～18日(金)	全国ジオパーク大会	隠岐4島(メイン会場：隠岐の島町)
10月19日(土)	武良祭風流	中村祭場(隠岐の島町)
10月26日(土)、27日(日)	産業文化祭・イカまぐろ祭り	浦郷港「ノア」周辺(西ノ島町)
10月30日(水)	飛鳥11入港(見学会)	浦郷港

西ノ島ふるさと案内人ミーティングは面白い！

夏から毎月「西ノ島ふるさと案内人」が集まって、町の自然、歴史、文化等について勉強したりしています。このグループは3年で3名から25名に増え、9月は西ノ島の野鳥、隠岐世界ジオパークの理念を基にしたバスガイド、秋の行事などについて楽しく学びました。秋から冬にかけて勉強会、バードウォッチング、自然・歴史探検隊などを開きたいと思っています。次回のミーティングは10月7日(月)13:30～



15:00で、場所は別府港ターミナル2Fです。まだ、ふるさと案内人を募集していますので、興味のある方はぜひ観光協会へ連絡して、ミーティングに参加してください。町歩きガイド、バスガイド、ウォーキングガイド等の依頼がまだまだ来ています。ふるさと案内人として、みんなで町の良さ、そして隠岐世界ジオパークの良さを伝えましょう！

JapaniCan 撮影・取材がありました！

隠岐・西ノ島を海外の観光客にアピールするために、隠岐4島内で観光スポットや食事処で撮影をしました。西ノ島では、外浜海水浴場、赤尾展望所、摩天崖、国賀浜の夕陽、由良比女神社など楽しい写真を撮り、今度オープンする隠岐のJapaniCan ホームページで使われる予定です。これから観光協会で、この写真を使って西ノ島を海外のお客さんにも宣伝したいと思っています。国内外のお客さんを世界ジオパークへ呼びましょう！



西ノ島ふしぎ発見②③

～ 観光協会職員の江崎さんと秋に見られる鳥について話をしました～

ニコラ：江崎さん、鳥にとって秋はどんな季節ですか？

江崎：秋は子育てをした場所から冬を越す場所へ移動する時期です。このことを「渡り」と言います。

ニコラ：秋の西ノ島ではどんな渡り鳥が見られるのでしょうか？

江崎：西ノ島は離島のため、日本海を渡る鳥たちの休憩場所となっている可能性があり、小鳥、タカ、カモ、サギ・・・など多くの種類の鳥が訪れると予想しています。今、西ノ島で確認されている鳥は184種(「西ノ島の今昔」より)ですが、そのほとんどが渡り鳥です。でも、まだ多くの鳥が訪れている可能性があります。もしかしたら新発見の鳥が見つかるかもしれません。

ニコラ：私もふだんと違う鳥がいらないか、気にしてみたいと思います。

江崎：そうですね、変わった鳥を見たら、大きさ、色、形...、どんなちょっとした事でも良いので、ぜひ教えてくださいね。

ニコラ：たくさんの渡り鳥が訪れる西ノ島はふしぎですね！